



踊り通し自分見る



独自スタイルを追求

華やかなベリーダンスを舞う踊り手多寿子さん(21)は、那覇市出身のベリーダンサー(金貴孝夫撮影)

ベリーダンサー 金城多寿子さん

音楽に合わせて、リズムカルに波打つ体が見る人をくき... 東京で音楽イベント運営の仕事をしていた金城さん。ベリーダンスの習い事をしていた7年前、「やりたいことをするのなら、今しかない」と仕事を辞め、ベリーダンスの本場、トルコへと修業に旅立ちました。半年の

ベリーダンサー

トルコ滞在後、エジプト、ニューヨーク、フランスでも修業を続け、独自のスタイルを追求しました。特に2年を過ごしたニューヨークは、さまざまな人種がともに生活し、自由な空気があり「表現のおもしろさ、自由さ、深さを知った」そうです。4年前に日本に戻り、東京でスタジオを開校。この5月には那覇市にもスタジオを開校し、故郷沖縄でも本格活動を始めました。

1983年8月13日生まれ、那覇市出身。首里高校染織科卒業後、東京で音楽イベント運営会社に勤務する。2005年から約3年間海外でベリーダンスの修行を積み、08年に東京にスタジオ「Annone(アノネ)」開設。ことし5月には那覇市前島に沖縄本校を開校した。

琉球怪談百物語

ほんとうにあったこわい話 81

小原 猛

南城市にある石嶺勝次さんの実家の2階では、夜になると足音が聞こえてくるという。長男である勝次さんがついに先月、実家に宿泊したときのこと。夜中の2時ぐらいに、ふと目を覚ました勝次さんは、外の廊下を、びちゃ、びちゃ、と濡れた足で歩く音を耳にした。風呂上がりの子どものような足音だった。

2階の足音



イラスト 三末 静

様子が見えなかったのだという。廊下をびちゃ、びちゃ、と歩きながら、いつもなら通り過ぎて行ってしまふ足音が、いつの間にか止まってしまったという。勝次さんはドアの外に人の気配を強烈に感じた。と、そのうち、びちゃ、びちゃ、と足音が聞こえてきたのだ。それがだんだんとこちらに近づいてくる。いつの間にか足音はドアを開けずに部屋の中へと入ってきたようだった。と、次の瞬間、ドーンといふすさまじい衝撃と共に、勝次さんの体が金縛りになった。

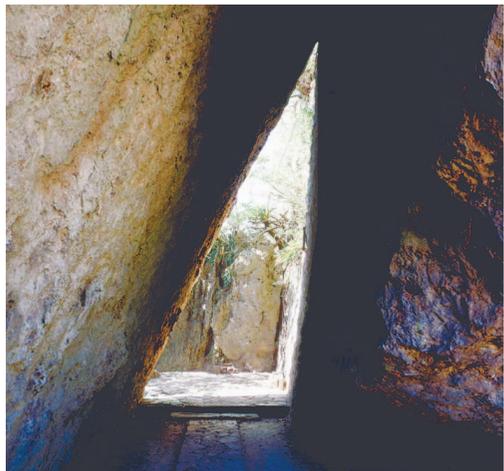
メッセージ 妥協せずやり通して 職業や夢を考える時も、また仕事に就いた後もそうですが、一番大事なのは自分が「これだ」と思ったことを妥協せずやり通す気持ちが大切だと思います。そのうち「ここで終わっては何にもならない」と思うくらい楽しくなります。表現の世界も自分自身を探求することも、答えを見つけることはとても難しいですが、背伸びをせずに自分や仕事と向き合えば、社会での役割が見えてくると思います。

なるためメモ ベリーダンサーの資格はありませんが、プロになるには、生徒としてスタジオに通い、技術を積んだらインストラクターになり、その後独立するのが一般的です。華やかに見えるベリーダンスですが、1日100回の腹筋など、「地味な苦勞」を重ねる根気や体力も必要です。多くの人を前にステージに立つ精神力や度胸も必要だそうです。



小学校のお楽しみ会で空手を演舞する金城多寿子さん。子どものころは「男の子みたい」だったという

歴史さんぽ 歩く見る琉球・沖縄 比嘉悦子 (沖縄歴史教育研究会) 18 齋場御嶽 (南城市) 琉球王国最高の聖地 齋場御嶽にはイビトと呼ばれる神域が六つあります。御新下りではその神域にお供え物をし、大庫理で名付けの儀式を行います。なんとこの儀式、子の刻、つまり夜中の12時から行われます。神聖さと厳肅さ、そしてさまざまな自然神の力をその身にうけて、新しい神女への一歩を踏み出す齋場御嶽、さぞ神秘的な光景だったのではないのでしょうか。最近ではパワースポットとも囁かれる齋場御嶽。もたれかかる二つの巨石。三庫理から望む久高島。人間の力の及ばない自然の景色に触れたとき、あなたも聖地としての神秘さや偉大さを体感できるのではないでしょうか。



琉球王国の最高神女齋場御嶽の地・齋場御嶽(南城市)

メモ 昔から「ウタキからは石1個、草1本も持ち帰ってはいけない」といわれています。今でも多くの人が祈りに訪れる神聖な場所です。荒らさないようにし、歩きやすい服装で行きましょう。入館料...大人200円、小人100円(団体料金あり)。開館時間...午前9時~午後6時(午後5時半最終入場)。無料駐車場有り。



歴史さんぽ

比嘉悦子

(沖縄歴史教育研究会)